

日本共産党のえんど久子市議が要求

市民の健康づくりのために



町内公民館でスポーツ指導員の指導の元、タオルを使ったストレッチを楽しむ参加者。水分の取り方など、健康のための様々なノウハウも教えてくれます。

6月17日の市議会一般質問で、猿渡（えんど）久子市議は、健康増進の取り組みについて質問しました。

ゆったりストレッチ教室大好評

健康に過ごせることは何よりも幸せなことであり、国保税や介護保険料などを抑えることにもつながります。別府市では、様々な健康増進や介護予防の取り組みをしています。この質問ではスポーツ健康課と高齢者福祉課が連携して取り組む「ゆったりストレッチ教室」について質問。「昨年度は週1回開催し、地区公民館の体育館では1万873名、町内公民館では938名、計12000名近い参加があった。大好評で、今年度は会場も増やし週2回にして2ヶ月だけで地区体育館で5200名ほどの参加があった」と答弁がありました。その後、8月6日には参加者が早くも1万人を超えました。

スポーツ指導員を正職員に

えんど市議は、スポーツ指導員の資格「健康運道指導士」について質問し、教室に参加した時の様子を紹介しながら、「友だちもでき、心身ともに健康づくりができる大変よい取り組みだ。健康運動指導士は、大変貴重な専門性が高い資格で、現在は嘱託だが正職員として配置すべき。参加者からも



地区体育館でも会場いっぱいの参加者が楽しく体を動かす。

健康増進の取り組みをさらに

スポーツ健康課長は「市民の健康増進を図っていくためにも、関係課と協議していきたい」と答弁しました。えんど久子市議は、医療費や介護保険給付

が増え続ける中、健康づくりをすすめることは非常に大事なことで、健康増進の取り組みに、さらに力を入れてもらいたい」と求めました。

別府市議会のホームページで本会議の質問の映像を見ることが出来ます。ぜひご覧下さい。

日本共産党 別府市議団
げんきニュース

TEL・FAX 平野文活21-6749・野田紀子22-9253・えんど久子25-7630
<http://www.ctb.ne.jp/~jcpbesig/>

発行責任者 平野文活
別府市石垣西8-2-31
TEL0977-22-6576

No.438
2010.8.17.

生活と健康を守る会のみなさんと一緒に

生の声で市と話し合い

市は暮らしと福祉を守る役割を

別府市生活と健康を守る会は、事前に提出していた要求書にもとづき、8月16日別府市と交渉を行ない、3時間あまり話し合いを持ちました。藤内宣幸福祉保健部長をはじめ課長らが対応しました。

山村徳雄会長より、「市民生活は深刻さを増してい

る。憲法の精神を遵守し、低所得者の暮らしと福祉を守る役割を今こそ発揮していただきたい」とあいさつ。

野田紀子市議と猿渡（えんど）久子市議、日本共産党別府市県政対策責任者の福田きみ子さんも参加。熱中症対策を求める緊急申し入れも行いました。



手前が市の部長・課長・課長補佐のみなさん。向こう側1列目左から、野田紀子市議、えんど久子市議、山村徳雄会長、福田公子県政対策責任者。

会員のみなさんから口々に実態や要望が出されました。

会員のみなさんから「病状に応じた就労指導をするため、医師から病状を聞いてほしい」など、実態と切実な要望が出されました。山村会長は「生活保護の決定は申請から14日以内の法定期限を守るように。非常に不安な思いで待っている

。14日をこえる場合は、なぜ遅れているのか本人に連絡してほしい」と要望。市は「医師の意見書を読んで指導し改善したい」「決定が14日をこえる場合は申請者に連絡することを徹底する」と回答しました。

障がい者・ひとり親家庭の医療費助成

障がい者・ひとり親家庭医療費助成を立て替えるの必要がない現物給付に、という要望については、えんど市議が「郵送もできるがやはり大変だ」と実態を出して要望。部長が「ひとり親

家庭が困窮している実態を見ている。市だけでは難しい。県下の部長会議でも私から県へ要望した。全国的に半数近くの県が実施している」と述べるなど、率直に意見交換しました。

短期保険証3600世帯へ

国保税の問題では、7月現在、期限付きの短期保険証は3659世帯、医療費が全額自己負担となる資格証明書は107世帯と回答。

福田きみ子氏は「人数が増えると国保税が上がるため『子どもが生まれても喜ばな

い』という声を聞く。これまでと同じ対応ではなく、百年に一度の不況の中、実態にあった対応を」と求めました。

市は「治療が必要な場合は、短期証を出し受診の機会を奪うことはしない」などと回答しました。

